

令和元年 6 月 26 日

◎上田（貢）委員長 ただいまから、危機管理文化厚生委員会を開会いたします。

（10 時 00 分開会）

《委員長報告取りまとめ》

◎上田（貢）委員長 本日の委員会は、「委員長報告の取りまとめについて」であります。

それでは、委員長報告の取りまとめを行います。委員長報告の文案については、お手元に配付してありますので、この内容の検討をお願いします。

報告書案を書記に朗読させます。

◎書記 危機管理文化厚生委員会が付託を受けた案件について、その審査の経過並びに結果を御報告いたします。

当委員会は、執行部関係者の出席を求め、慎重に審査いたしました結果、第 1 号議案、第 11 号議案、第 14 号議案、以上 3 件については全会一致をもって、第 8 号議案については賛成多数をもって、いずれも可決すべきものと決しました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

初めに、健康政策部についてであります。

第 1 号「令和元年度高知県一般会計補正予算」のうち、医薬連携推進事業費について、執行部から、昨年度から取り組んでいる高知型薬局連携モデルの整備が、新たな国の事業である「薬局の連携体制整備のための検討モデル事業」に採択されたことにより、薬剤師派遣を要する地域活動と地域の薬剤師のマッチングを図る地域活動強化システムを構築するなど、さらなる強化に向けて取り組むための経費であるとの説明がありました。

委員から、地域活動強化システムに登録する薬局をふやすことが重要だと思うが、どれくらいの登録を目標としているかとの質疑がありました。

執行部からは、現在 380 ほどある保険薬局のうち、まず、高知家健康づくり支援薬局の認定を受けている約 300 の薬局には年度内に必ず登録していただき、残りの薬局については福祉保健所を通じて声かけを行うなどにより、登録数をふやしていきたいとの答弁がありました。

別の委員から、お薬相談会等の開催についての地域住民への周知や、参加が困難な方のところへ出向く取り組みはどのような状況かとの質疑がありました。

執行部からは、現在、派遣等の要請件数が増加する中で、十分な個別対応ができにくくなってきており、積極的に仕掛けるということはあまりできていない。そのこともあり、まずは対応できる薬剤師の裾野を広げるため、地域活動を強化する今回のシステム構築等に取り組むとの答弁がありました。

別の委員から、地域ケア会議などに派遣される薬剤師が特定の者に固定化し、マッチングがうまくいかないという課題があるが、対応できる薬剤師は足りているのかとの質疑が

ありました。

執行部からは、県内の薬剤師の総数としては最近 10 年間で百名程度ふえてきているが、地域的な偏在があり、中山間地域を中心に「ひとり薬局」というところも多い。そこを補うため、広域で薬局が連携し、地域を支えていく高知型薬局連携モデルの取り組みを進めているとの答弁がありました。

別の委員から、薬局間の連携体制が整備できても、「ひとり薬局」が多い地域では、なかなか地域ケア会議などに参加できないという話を聞くが、この点は体制強化を図ることによって改善できる見込みかとの質疑がありました。

執行部からは、厳しい面はあるが、これまで各薬局に対する地域ケア会議などへの参加の呼び掛けが十分なものではなく、一方で、機会があればぜひ参加したいという薬局・薬剤師の声もいただいております、今回構築する地域活動強化システムを活用して、掘り起こしを行いたいとの答弁がありました。

次に、文化生活スポーツ部についてであります。

第 1 号「令和元年度高知県一般会計補正予算」のうち、夢・志チャレンジ基金積立金について、執行部から、今年 4 月に篤志家の方からいただいた寄附金を活用し、平成 29 年度より 3 カ年の事業として行っている給付型奨学金の給付事業を、今後とも継続して行うため、基金の積み立てを行うものであるとの説明がありました。

委員から、新たな法律が制定され、今後、高等教育機関の無償化の施策が見込まれる中で、当該基金による今後の奨学金の給付についてはどのような形を考えているかとの質疑がありました。

執行部からは、今回、6 千万円の基金積み立てにより、来年度の大学入学生を対象とした奨学金の給付を考えているが、国の制度も踏まえ、当該基金を原資とする給付金制度の見直しを含めて調整し、9 月定例会には夢・志チャレンジ基金条例の改正について提案したいと考えているとの答弁がありました。

以上をもって、危機管理文化厚生委員長報告を終わります。

◎上田（貢）委員長 それでは、御意見をどうぞ。小休にいたします。

（小休）

◎ 3 ページの上の端段落から、これセンテンスが長過ぎてね、どっか途中で切って話を続けてもろうたほうが。普通 75 文字までで切ったら聞きやすいということやき。これ聞く人が聞きにくいと思うき。

◎ 切るなら「薬局の連携体制整備のための検討モデル事業に採択された。これにより」とかにするしかない。

◎ 大体自分たち 100 文字ぐらいかなと思ってるんですけども、全体的に 100 を超えてる部分が結構あるかなとは思ってますよ。

- ◎ 聞くほうは理解しにくくなるわけよ。主語がどっと述語まで離れてくるきよね。
- ◎ 今後、75 から 100 ぐらいで、文章は切る表現をする。
- ◎ そうやね。テンポように話が展開していくき聞きやすいと思うで。
- ◎ ○○委員の言われたとおり「された」で切ったら。
- ◎ わかりました。一任ということで、お願いいたします。
- ◎ 8号議案を私は反対したんですよね。その時に、消費税増税便乗のという意味合いで、県民に負担をかけていいのかっていうことを言ったと思うがやけど、一言もないので。
- ◎ 入れたらえいがじゃないです。全会一致でない部分はなぜ全会一致やなかったかという事は少しばかり。
- ◎ 賛成多数ということになっちゅうですね。調べたら、だからこうですっていうことは、入れんでもえいはえいらしいです。これはどうしましょうか。
- ◎ 入れちゃったら。
- ◎ 文案は、正副委員長に一任でお願いします。
- ◎上田（貢）委員長 正場に復します。

それでは、ただいま協議いたしました文案により、本会議で委員長報告を行うことといたします。

なお、細部の調整については、正副委員長一任でよろしいでしょうか。

（異議なし）

- ◎上田（貢）委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

《閉会中の継続審査》

- ◎上田（貢）委員長 それでは、次に、閉会中の継続審査の件を議題といたします。

お諮りいたします。

当委員会は、閉会中も継続して審査並びに調査をしたいので、お手元に配付してある案のとおり申し出ることにより御異議ありませんか。

（異議なし）

- ◎上田（貢）委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

以上で、日程は終了いたしました。閉会の前に委員の皆さんに2点ほどお諮りしたいことがあります。

まず1点目は、「出先機関等の調査事項の取りまとめ」の委員会の開催日程についてであります。7月29日月曜日の午後1時より開催したいと思いますが、御異議ございませんか。

（異議なし）

- ◎上田（貢）委員長 御異議なしと認めます。では、7月29日月曜日の午後1時から開催することと決定いたします。

なお、取りまとめ項目については、正副委員長一任とさせていただきます。

次に、委員会の県外調査の候補地と日程についてであります。書記に説明をさせます。

(書記説明)

◎上田(貢)委員長 それでは、このことについて協議したいと思います。

御意見をどうぞ。小休にします。

(小 休)

－候補地について協議－

◎上田(貢)委員長 正場に復します。

それでは、調査先については北海道と、日程については8月27日から29日までと決定したいと思います。御異議ありませんか。

(異議なし)

◎上田(貢)委員長 御異議なしと認めます。よって、さよう決定いたしました。

なお、調査・宿泊等に係る細部の調整におきましては、正副委員長に一任をお願いいたします。

以上をもって、日程は全部終了いたしました。

これで、委員会を閉会いたします。

(10時41分閉会)